

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム地利目木
(ユニット名)	A ユニット
所在地 (県・市町村名)	新潟県新発田市佐々木2610
記入者名 (管理者)	青木 徹
記入日	平成 21年 9月 24日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ご利用者の地域に根ざした暮らしを支援できるよう、また、ご利用者が安心して生活していただけるホームを目指して運営理念を策定している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示し、また、職員会議等にて理念の共有を図り、その思いや方針を職員が意識して取り組めるよう努めている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族と地域の人々との交流の場を設け、ご利用者が地域中で暮らし続けることの大切さを伝えている。また、広報誌の配布により、ホームの取り組みについて伝えている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	自治会への参加以降、回覧板の配布や広報誌の配布、地域の行事への参加を通じて気軽に声をかけあったり、ホームに立ち寄っていただける機会が増えた。今後もより身近な付き合いができるよう努めたい。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への参加を始め、地域の祭礼への参加や隣近所の方々をホームの行事にお招きする等を通じ地元の人々と交流することに努めている。今年度は、施設見学会も地元の人々の皆様をお招きして行き更なる交流に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>隣接のショートステイと合同で施設見学会を行い、その旨を伝えた。その結果、来年の自治会における祭礼の担当となり、祭礼における食事準備を職員とご利用者、地域の皆様と共に行うこととなった。常にご利用者と行っている食事作りの支援を活かして地域貢献できればと考えている。</p>		<p>認知症への理解や啓発活動などを地域住民の皆様に行ってきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>昨年の評価を職員会議で話し合い、改善策を全員で考え年間を通して具体的な改善に取り組んでいる。昨年指摘のあった改善点として市町村との連携、ご利用者の重度化への対応について、職員全員で改善に取り組んできた。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議にて2ヶ月の活動報告を行い、いただいた意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者に運営推進会議の内容を報告し連携を図っている。特に施設見学会について話し合いを持った際は、サービス向上につながる意見交換が積極的にできた。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>今年、申請を行ったご利用者・ご家族からの相談で職員の多くも実際のものとして経験する機会を得た。その際、職員やご家族の理解を深めるための資料を渡したり、説明するなど配慮した。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての定義づけや、関連資料を基に研修会を行った。また、マニュアルを整備し職員会議等で読み合わせを行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>できるだけ分かりやすい説明を心がけ、一方的な説明とならないよう配慮している。分からない点は繰り返し話し合い、納得していただいた上で契約を締結している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議に参加していただき、意見や不満等を外部の方々へ表せる機会を設けている。ご利用者の意見は、職員会議やユニット会議にて職員へ伝え、運営に反映させている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月のご様子を文書にてご家族にお伝えしている。また、金銭出納帳の写しもお送りし、ご利用者の健康状態や暮らしぶりをお伝えしている。来訪時には、普段の生活の様子について説明する時間を多く取るよう工夫している。職員の異動に関しては、家族会の際に参加されたご家族に報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会や行事への参加を通じて、できるだけご家族と話し合う機会を持ち、ご利用者のご様子を伝え話し合う中で、自然とご家族が意見できるような雰囲気作りに努めている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的な会議と親睦会を設け、職員の意見や提案を聞くようにしている。できるだけ現場の職員の意見が運営に反映できるよう努めている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者はできるだけシフトに入らず、急な要請に対応できるよう若干余裕のある職員配置を取っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動や退職の際には、交代する職員で引継ぎや担当のご利用者やご家族への挨拶などを必ず行い、ご利用者へのダメージを最小限に防ぐよう配慮している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の段階別研修会をはじめ事業所内でもその特性に合わせた研修会を行い、給食研修、ケアプラン研修を行った。外部研修にも昨年に比べ参加している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新発田市内のグループホーム2事業所と連携し、職員の交換研修、見学会を行った。また、新発田市近隣のグループホーム及び小規模多機能19事業所による地域密着型サービス事業所交流会にも管理者、職員とで参加し、相互訪問や外部との繋がりを通じてサービス向上に活かしている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内の事業所職員との交流や、事業者の懇親会を定期的に設け、ストレスの軽減を図っている。また、職員休憩室はホールから少し距離を置いてあり、畳を敷いた環境で静かにゆったり休憩できるよう配慮している。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けて適宜支援している。今年度から資格手当を設け職員個々が目標を持って働けている。運営者は定期的に事業所を訪れ、現場を確認し指導している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接の際に、ご利用者とご家族から生活状況や様態、これまでの生活歴を聞き取り、利用に係わる希望を把握できるよう努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時をはじめ事前面接時やお電話をいただいた際に、ご家族とよく話し、安心してご利用いただけるよう説明することに努めている。また、見学していただく機会を設けたり、ご利用前にホームで過ごす時間を提供する等、開かれた雰囲気作りに努め、ご家族に安心してお話ができる環境を整えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急を要する場合や相談をしている中で、必要としているサービスが異なる場合でも、他事業所の紹介や説明等の支援を適切に行い、ご利用者とご家族の負担軽減に努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人が了承していただけるよう説明の場を設け、できるだけ安心して入居いただけるよう配慮している。不安に感じられることもあるので、ホームに立ち寄っていただき、見学やご利用者と過ごす時間を設けるなどの工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者一人ひとりの力に合わせて、様々な場面で活躍していただけるよう配慮している。人生の大先輩であるという尊敬の念を持ち、共に支えあう関係の構築に努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の存在があつてこそグループホームにおいても穏やかに暮らしていくことができると強く感じており、何事にも相談しながら支援し、関係の継続と共に支えあう体制となるよう十分に留意している。ご家族とご利用者が共に食事作りを行う会を設けた。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前、入居後とご利用者個々の家族関係がある中で、とても良い関係にある方もいれば疎遠な関係の方もいて様々あります。しかし、グループホーム入居後は新たな家族関係となる点では共通しています。その新しい関係がより良いものとなるよう、お便りや行事を通じて両者の橋渡しがききよう努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きたい場所訪問を定期的に行い、思い出の場所やなじみの場所へ出かけている。ご家族や親戚の方以外の知人の来訪は未だ少ないが、グループホーム主催の花見や夏祭りといった大きな行事を行う際は、ご家族や親戚以外の方々の参加も増えてきている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士の関係を把握し、職員が情報を共有している。席次などの配慮やご利用者同士の悩みをお聞きしたりしながら、関係の調整役となるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用終了後にも、ホームで相談を受けることが度々あり、必要な支援を行っている。ご利用者にとっての環境の変化によるダメージを最小限に止めるために協力させていただいている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや意向を第一に、日々の暮らしの様子からも意向を把握できるよう努め、また、ご家族にも相談しながら、一つずつ意向に沿えるように進めている。意向の把握が困難な場合にも、できるだけ本人本位に検討するよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントツール(センター方式)にて、職員皆で生活歴、暮らし方を把握し、情報共有に努めている。全ての情報を把握しきれていないが、少しずつご利用者やご家族からお話を伺っていききたい。		プライバシーに気をつけながら、これまで以上にご家族やご利用者との話の中でよりよい情報が得られるよう、信頼関係を築いていきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご利用者個々の生活ペースを把握し、職員間で情報共有を図りながら、できることはできるだけ行っていただけるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントやモニタリングを複数の職員で行い、課題の把握とケアの向上に活かしていけるよう努めている。ご利用者には日々の関わりの中でご本人の意向を把握し介護計画に反映できるようにしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の評価と共に、介護計画とご利用者の状態がそぐわない場合は直ちに介護計画を変更している。介護計画は少なくとも1年に1回は見直しを行うようにしており、職員とご利用者・ご家族と話し合いながら介護計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察記録、受診記録、家族記録、健康記録を備え、各種記録を一冊にまとめており、変化に気づきやすくしている。また、夜間ケア、日中ケア、介護計画に基づいたケアについて色別に記録しており、介護計画に反映できるよう工夫している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診支援は、基本的に全て職員が対応しており、ご利用者のなじみの医院をはじめかかりつけの医院へお連れしている。ご家族の要望があれば家族の付き添いもお願いしている。日常生活の中で買物支援、受診支援が可能となるようシフトを組むようにしており、その都度柔軟な対応ができています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員に相談し、地域の老人クラブから踊りのボランティアに来ていただいたり、コミュニティーセンターへご利用者の作成した作品を出展する機会を設けたり、図書館を利用したりとご利用者の意向に沿って利用させていただいている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	行事の際に屋台を出店していただいたり、地域の訪問理容をご利用者の身体状況にあわせて利用させていただいている。運営推進会議を通じて助言も受けており、今後も地域のボランティアなどを活用していきたい。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じて、地域包括支援センターとの関係強化を図ることが出来ている。また、権利擁護に関しての相談も地域包括支援センターや市町村などに相談しており、ご利用者の支援を協働できている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前から利用されている医療機関やご利用者、ご家族の希望を最優先に、事業所の協力医をかかりつけ医にする場合でも、ご利用者とご家族に説明の上同意いただいて受診支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	嘱託医は併設する事業所の嘱託医を長く勤めており、認知症に対する経験が豊富で職員が相談しやすい環境にある。より専門的な相談については県立病院に相談するなど配慮している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設する事業所の看護職員と24時間の連携が可能であり、日々の健康管理や相談の中で、ご利用者の変化にいち早く気づくことができるよう支援している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医師やソーシャルワーカーとの情報交換やカンファレンスを通じて、早期退院に向けた連携を図り、職員も情報提供や、定期的にご利用者のもとを訪問し、安心できるよう配慮している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	嘱託医との医療連携が成立し、重度化対応への道が開けたことにより、説明会においてご本人及びご家族から終末期のあり方について方針を確認することができた。お一人おひとりの意向に関して嘱託医と繰り返し話し合い、対応に向けた準備を行っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	該当者がまだおられないが、事業所の定めた指針を基に、ご利用者とそのご家族の意向を踏まえ、かかりつけ医、嘱託医や職員がチームとして支援に取り組める状況が整いつつある。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院や退所に伴いご利用者が住まいを替える場合は、サマリーを手渡すと共に、職員が訪問し情報共有に努めたり、ご利用者と過ごす時間を設ける等、ご利用者のダメージが最小限のものとなるよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ご利用者がこれまで過ごしてきた環境や状況、性格等を考慮し言葉かけを行っている。現場や会議等でも常に心がけるよう指導しており、ご利用者の尊厳や権利を守っている。個人情報についてはマニュアルに沿って適切に対応している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ご利用者の判断能力や意思表示方法に応じて、表情や身振りなど個々に働きかけている。飲み物の選択、食べたい物等、日常生活全般において、ご利用者と共に希望をお聞きしながら生活できるよう支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日のおおよその流れは決まっているが、ご利用者の一日のペースやその日の希望や体調等に沿って、食事や入浴、買物などの支援を柔軟に行っている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>身だしなみやおしゃれのため購入希望の物品があれば買物にお連れしたり、更衣時にはご利用者の生活スタイルの合わせて支援している。理美容に関しては、ご本人の望む店に行けるよう支援している。外出が難しいご利用者には、ご本人の希望をお聞きしながら訪問理美容を活用している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備から後片付け、更に買物時における夕食メニューの決定に至るまで、ご利用者個々の能力に合わせて、できるだけ食事準備を職員と共に行っている。また、献立は1ヶ月毎に作成し、バランスの取れた食事、季節感を感じられる食事を心がけ、ご利用者と共に栽培した野菜をメニューに取り入れることも一つの楽しみとなっている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お好きな時間にお茶やお好きな飲み物を飲めるよう配慮し、嗜好品の把握に努めている。現在は、お酒を飲まれる方やタバコを吸われる方はおられないが、過去にはご利用者の体調を考慮しながらお好きなように楽しんでいただいていた。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご利用者の状態に応じて排泄チェック表を用意し、排泄リズムを把握することによって、トイレ誘導や声かけを行いりハビリパンツが尿取りパットで済むような、できるだけ気持ち良い状態で過ごしていただけるよう支援している。また、尿取りパットの交換などは、羞恥心に配慮してさりげなく行えるよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中の中の入浴が主となっていたため、職員の勤務時間を変更し、午後・夕方と人員を厚く配置することによって、自由な時間での入浴が可能となった。お一人おひとりがよりくつろぎながら入浴を楽しめるよう支援していきたい。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	外出時や行事の際など個々のご利用者の疲れ具合に応じて休息支援を行っている。日中の活動は体力や要望に応じて支援し、ゆっくりと過ごして頂いている。夜間に寝付けないう時には、飲み物の提供や一緒にお話をして過ごすなど安心できる環境に配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りやお掃除、歌や踊りなど、ご利用者の生活歴やできること、したいことに沿って役割をもって生き活きと生活できるよう支援している。また、毎日の買物をはじめ散歩や外食、ドライブの日を設けて、ご利用者の要望に応え、様々な場所へと出かけ気分転換となっている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かり金の一部を管理されている方もおられ、個々のご利用者の要望に応じて支援させていただいている。普段は、金銭管理をされていない方でも、買物の際に財布を持っていたらご自分で支払っていただくなどの支援をしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、食材の買物のため出かけているため、食料品の買物や個々の希望物品の買物など希望に応じて日常的に外出支援を行っている。外出が難しい方でも、車椅子に乗車しての散歩や、大型車を使用してのドライブの日を設けて、ご利用者の要望に応え、様々な場所へと出かけ外出支援を行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご利用者合同での外出支援に加え、「個人外食」と称し、ご利用者個々の要望に応えられる外出支援を平行して行っている。要望が添えば数名の外出となるが、この「個人外食」は、お一人おひとりの個性に特化した外出支援としてご利用者から好評を得ている。		ご家族と合同外出の機会を設けているが、今後は、合同イベント以外にもご家族単位で職員が付き添い、外出できるように取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の要望に応じ、電話をかけることができるようにしている。思い思いの年賀状を作成して大切な人とのやり取りができるように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	できるだけ柔軟に対応し、ご家族などがゆっくりとくつろいでいただけるよう環境面も工夫している。職員は来客者に対し、しっかりと対応できるよう指導し、居心地の良いホームになれるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないためのケアマニュアルの整備と、日々の生活支援の中で職員が身体拘束に関して意識してケアをできるよう取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯対策のため夜間の施錠は徹底している。日中は玄関を開けているが、職員の体制上、やむをえない場合は施錠している。テラスを常時開放しており、開放感のあるホームとしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	記録業務の際にもフロアーや食堂などご利用者の様子を見渡せる場所で記録業務についている。夜間は数時間毎に訪室し安否の確認を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者の状態によって、注意を払う必要がある物品が異なるので職員らが把握し、管理方法を取り決めている。包丁、お薬は厳重に管理しているがその他洗剤などは管理方法を取り決め危険のない範囲で手の届くところに置いている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを記録し、改善策の実行と評価を行うことで職員の意識向上と環境改善にも役立てている。事故が発生した場合は直ちに事故の要因と対策を協議し、家族や関係機関への説明と報告を行っている。日々の支援の中で事故防止のための気付きを話し合い工夫に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に職員と共に応急手当に関する内部研修を行っている。救急救命講習は年1回行うことにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いの下に避難訓練を行い、消火器の使い方や避難方法の訓練を行っている。火災に限らず、震災や水害など災害全般に関する消防マニュアルを整備し、非常事態に備えている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	外出や活動する上でリスクが高くなることもあるが、ご利用者にとっての望む生活を支援し、活動的に生活されている姿を日常的にご家族の説明し、リスクをできるだけ軽減するよう工夫していることも説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックをはじめ普段の健康状態を記録によって把握し、情報共有をしている。定期的な往診での報告、相談に加え、異変に気づいたら職員、管理者に相談し、状況に応じて受診支援を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録ファイルに処方された薬の効能書きを保管し、薬の内容や容量を把握できるようにしている。受診記録の整備と、服薬マニュアルの徹底を図り、適切に服用できるよう十分留意している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜を多く取り入れたメニューの提供と、定期的な水分補給、運動・体操の機会が生活リズムの一環として無理なく自然に行えるよう提供している。排便チェックを行い、個々の排便状況を把握し援助すると共に、便秘がちなご利用者にはプランに反映させ予防に努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを促しており、夜間は義歯洗浄を実施している。口腔ケアが自立されている方は定期的チェックを行い口腔内の状態を把握している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は個々に記録、水分摂取量は大まかではあるが把握し、1日5回程水分補給を行っていただけるよう促し、その他はご自分のお好きな時にお茶などを飲んで頂いている。栄養のバランスについては、法人内の給食担当者会議や、グループホーム事業所同士で会議を行い、栄養士の指導を反映させている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ご利用者、職員共に外出後、調理前、食事前などは必ずうがい、手洗い、消毒を徹底している。感染症マニュアルに則り取り決められた対策を実行している。新型インフルエンザ対策マニュアルも用意した。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルに基づいて、調理用具等の管理を行っている。冷蔵庫・保管庫の管理を定期的に行い、食品管理も徹底している。買物を毎日行うことにより、できるだけ新鮮な食物を得よう心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲にわかりやすい看板を設置し、テラスと裏庭に育てている花々が見え家庭的な雰囲気を作っている。玄関周囲にもプランター等で飾り、玄関内にはご利用者が作品展に出品した作品が来訪者を迎え、親しみやすく温かみのある雰囲気作りに努めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	のどかで閑静な土地環境と天窓から差し込む柔らかな光に加え、木を多く使用した居住環境の中で、ご利用者たちとの会話や家事をお願いしながら居心地よく過ごしていただいている。共用スペースの装飾は、ご利用者と相談しながら季節に応じて飾り付けしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールや畳スペース、食堂、応接スペースなど、ご利用者が思い思いのペースで過ごしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の居室に泊まることが可能である。居室には本人の使い慣れたもの、好みのものを本人・家族と相談し取り入れている。日常の買い物でもご利用者と共に相談しながら購入している。		ご利用者の使い慣れた物品が持ち込まれることが少ないが、少ないなりに工夫して居心地よく過ごせるように努めている。ご家族とのかかわりの中で少しずつ増やしていきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気のおよみがないうに、換気を適宜行っている。温度調節は、ご利用者の状態を把握し、確認を取りながら調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペースには手すりを設置している。広い面積を持つ共用スペースは、生活の中で自然に歩行訓練が可能である。個々の能力に合わせてシルバーカーを使用したり、自立した移動が可能ないように配慮している。また、安全な移動が可能ないように机の位置やソファの位置にも配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室戸に施されたそれぞれ個別な木枠の装飾が、ご利用者ご自身の居室位置の把握に繋がっている。3箇所に設置された大きな時計と、見えやすく工夫されたカレンダーなどご利用者の目線に立った配慮をされており混乱なく過ごしていただいている。また、施設内はバリアフリーとなっており安全にも配慮している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスには季節の花々をプランターに植え、裏庭には花畑を作り、テーブル、ベンチを置いてご利用者がお茶の時間を過ごすなど楽しんで頂いている。また、畑を利用し野菜作りに取り組んでいる。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

昨年の自治会入会を機に、地域の行事やグループホームの行事を通じて地域住民との交流が盛んに行えるようになり少しずつ地域に馴染んできている。ご利用者にとってホームで過ごすことが日常であり、我が家であると感じていただけるように努めている。また、ご家族にとってご利用者が安心して暮らしていると実感していただけるよう関係性の継続と信頼関係の構築に努めている。